

高等学校（進路検討期）における「個別の教育支援計画」作成・活用のポイント

＜個別の教育支援計画を作成・活用するメリット＞

- 担任や保護者が、本人の特徴や得意なことを具体的に把握することができます。そのことにより、適切な支援を行うことができ、本人の課題に取り組む意欲が高まります。
- 「本人への働きかけ」と「環境調整の工夫」の2つの視点から指導方法を考えることにより、目標に向けた取組を具体化することができます。
- 校内の関係者が共通理解を図るための資料や、本人、保護者と学校が懇談する際の資料として活用できます。定期的に確認することで共通理解を深めることができ、就労に向け、関係機関と連携する際の基礎資料として活用することができます。

■学校から保護者に作成を働きかけた事例

＜子どもの実態と抱えている課題＞

- ・穏やかな性格で、物事に粘り強く取り組むことができる。
- ・他者とかかわろうとすることが少ない。
- ・時々、質問に対して黙ってしまうことがある。

実態の把握

【作成する際のポイント】

- ・一つの文には一つの内容にします。
- ・特になし場合は空欄でかまいません。
- ・なるべく簡潔で具体的に記述します。

年 月 日作成

関係担当者名： ○○高等学校

項目	できること・得意なこと		気になること	
	お子さんの様子	場面・状況	お子さんの様子	場面・状況
	本人の力でできたこと、できること。よい変化など。	本人がうまくできるための助けになる状況、物や人など。	本人の力でできづらいこと、苦手なこと。気になる変化など。	本人が力をうまく出せないことに関わる状況、物や人など。
生活	ここに記入することは、睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔習慣、生活時間や行動範囲など、生活全般のことです。			
	・毎日ウォーキングをしている。		・予定が変更になるとき、何回も聞き返すことがある。	
学習	ここに記入することは、教科学習の状況、家庭学習の様子、学習意欲など。		【活用する際のポイント】 ・支援会議等で、各項目の中心的内容が記載されているかを確認します。	
	・地理を得意としている。 ・理解できそうな内容には粘り強く取り組んでいる。			
人との関わり等	ここに記入することは、大人との関係や友達関係、「ことば」などのコミュニケーションの様子、状況やルールの理解などです。			
	・指示をよく聞き、はっきりと返事をすることができる。 ・特定の友達と仲良くしている。 ・時々状況下でのルールを常に意識して行動している。		・自分から話しかけることが少ない。 ・長い指示になるとわからなくなることがある。 ・状況の判断が難しとき、黙ってしまうことがある。	
進路実現のために	ここに記入することは、将来の自立に向けて、今できることなど、進路全般についてです。			
	・少しずつ課題に向かって粘り強く取り組むことができるようになってきた。		・話しかけられたとき、状況に応じて対応する力をつけたい。 ・指示がわからなくなったとき、どのように分からないかを人に伝える力をつけたい。	
	【作成する際のポイント】			

【作成する際のポイント】

- ・就労するときに身に付けておきたい力について、具体的な状況を書きます。

関係機関との連携

子ども支援センターやことばの教室、相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやってみたこと、変化があったことやエピソード等)
1	〇〇病院小児科 担当 △△	発達相談	<ul style="list-style-type: none"> 経過観察
2			

【活用する際のポイント】

- ・校内支援委員会等で、検査結果や助言に基づいて、具体的な支援を検討します。

【作成する際のポイント】

- ・関係機関での様子や検査結果を書きます。
- ・担当者からの助言等やそれを受けて家庭で取り組んでいることなどを記入します。

医療・療育機関・相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやってみたこと、変化があったことやエピソード等)
1	〇〇養護学校	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> 発達検査実施（WISC-IV）
2			
3			

【活用する際のポイント】

- ・検査結果等があれば、資料として添付します。
- ・校内支援委員会での話し合いを深める資料とします。
- ・深めるところは丁寧に確認します。

「個別の教育支援計画」

年 組 (歳 か月) 氏名
作成年月日 年 月 日 記入機関・記入者

メイン支援機関の希望・願い

- ・状況に応じた思考力や判断力を身に付ける。
- ・必要に応じて他者にかかわろうとする態度を身に付ける。

【作成する際のポイント】

- ・「実態把握シート」を参考にまとめます。
- ・よさを十分に生かして、各機関でできることを検討します。

いまの様子（現状把握）

今後の手がかり

- ・指示をよく聞き、はっきりと返事をする事ができる。
- ・時々の状況下でのルールを常に意識して行動している。

気になること

- ・長い指示になるとわからなくなることがある。
- ・状況の判断が難しいとき、黙ってしまうことがある。

長期目標：（ 2 ）年後を見通した目標

- ・学習の成果や課題を定期的に担当教諭へ報告することができる。

短期目標：（ 6 ）か月内の達成目標

- ・学級での連絡をスケジュール帳に記入することで、主体的に行動することができる。

【活用する際のポイント】

- ・本人理解を第一に考えます。
- ・関係機関の共通理解を図ります。

支援の手立て

本人への働きかけ

- ・スケジュール帳を用意するように伝える。
- ・月予定や週予定を記入するように伝える。
- ・下校時の連絡事項を記入するように伝える。
- ・日程をを必要に応じて記入するように伝える。
- ・スケジュールの変更を記入するように伝える。

【活用する際のポイント】

- ・「本人への働きかけ」と「環境調整の工夫」の2つの視点から指導方法を検討し、目標の達成状況を評価します。

環境調整の工夫

- ・スケジュール帳の使用方法を最終ページに記載する。
- ・利用状況を週に1回程度職員室で確認する。

【活用する際のポイント】

- ・できたこと（成果）と改善すること（課題）で共通化できることを確認します。
- ・共通化できないことはなるべく記述しません。

- 平成27年〇月〇日：取組開始から登校時と下校時にスケジュール帳に記載された内容を確認することができた。変更も自分から記入することができた。
- 平成27年〇月〇日：3か月目から学習以外の予定も自主的に記入し始めた。職員室でスムーズに話せるようになってきた。短期目標は達成できた。今後は、この流れをもとに学習状況の報告を加える。